

名前：

世界化に伴い、発展した技術は人間にとっ
て昔には考えられないぐらい便利な生活がで
るようになった。ということで、昔の不便な
ことはもうなくなってもいいとか、使えない
という意見も出てきた。その中でのものが新
聞や雑誌である。けれども、私は新聞や雑誌
がなくなるのはだめだと思う。

まず、いくら情報化時代になったとしても、
さすがに追いつけられない人たちもいる。若者
やある程度、今の時代になれている人たちが
いる一方、その人のおじいさんやおばあさん
などどうしても追いつけられない人にとっ
てまだ新聞や雑誌は社会とのつながりである。

そして、人の感覚はただ見るだけではその
記憶力とか集中力はよくない。実際に自分の
手で取って読んだり見たりして得たものがも
っと頭に残る。また、新聞や雑誌を読みなか
らそれについて考えることもできる。インタ
ーネットで読んだものはろくに頭に入らな
い。それは、目はパソコンの画面を覗いて

記事などを読み、一方手は画面を上げたり下
げたりして他のことをしているから情報がろ
くに頭に入らなくてたが「読んだ」の意
味になる可能性がある。

最後に、その情報の正しさの問題がある。
インターネットの一番の問題は情報が正しい
か、そうだったかネット上の情報は全て信じ
るべきかの点。确实ではない情報などがくこ
ろネット上で流り続けて、だれが読むかわ
からないままである。

こんな様々な理由で私は人にとって安心し
て受け入れられる新聞は必要だと思う。人間
が作、たものに連れて行かれるではなく、人
間が技術を発展させていくべきだと思う。